

<地域同窓会だより>

東北常盤会(鳳陽会東北支部と合同)

令和元年度同窓会および 「三浦副学長を囲む会」報告

沖中 宏志(土木60年卒)

【東北常盤会の現状】

平成15年9月11日に鳳陽会(経済学部同窓会)東北支部と合同で「山口大学同窓会連合会・東北支部」として7名でスタートし、平成24年7月21日に22名の賛同のもと「常盤工業会 東北常盤会」を設立しました。私が仙台に赴任した平成26年の「東北常盤会・鳳陽会東北支部合同同窓会」には前田孟冬彦会長(土木39)、鶴原敬久幹事(土木58)、志水俊文氏(土木63)と4名での参加でしたが、その後、東日本大震災の復興のために東北地区に赴任している同窓生がいることがわかり、順次声をかけて現在10名程度になっています。入会希望者をご連絡をお願いします。

【合同同窓会および三浦副学長を囲む会】

令和元年7月6日に三浦副学長の希望により「松島国際カントリークラブ」で小雨の中、2組でゴルフを楽しみました。優勝は断トツで当ゴルフ場のメンバーでもある最高齢の前田会長でした。

17時より仙台市内の日本料理「天繁」にて三浦副学長を囲み、東北常盤会7名、鳳陽会



東北支部幸頭会長他8名で同窓会を開催しました。また、他地区より仙台出張を利用して佐々木徹氏(土木56)、大西禎行氏(建設60)にも参加していただきました。三浦副学長には大学の近況についてお話をいただき、東北の美味しいお酒と肴をいただきながら各自の近況報告を行いました。会も盛り上がり、最後に沖部慎二副会長(工化38)の指揮のもと全員で山口大学学生歌を大合唱し合同同窓会および囲む会を終了しました。



資源・機材関東常盤会 令和元年度(第48回)総会報告

会長 松浦 幸浩(資源60年卒)

採鉱科、鉱山機械科、鉱山学科、資源工学科、機能材料工学科卒業生の皆様お元気でしょうか。資源・機材関東常盤会の令和元年度総会を6月29日(土)に東京三田のキャンパスイノベーションセンターにて開催しました。今年でもう第48回となり、当会を立ち上げられた和泉 武氏(鉱山35)、河合正克氏(鉱山35)、並びに長年この会を継続してこられた卒業生の皆様方の努力に改めて敬意を表します。

今回は、常盤工業会本部より島 徹史先生、水田義明先生(ともに山口大学名誉教授)、関東各学科同窓会の代表の方々、計6名のご来賓をお招きしました。例年ご出席いただいている関東在住の後藤誠史先生(山口大学名誉教授)、佐野 修先生(東京大学名誉教授)はご都合が合わず残念ながらご欠席でした。

卒業生は初めての方も含めて19名ご参加いただき、ご来賓と合わせて総勢25名の集まりとなりました。

恒例の講演会は、今回は2名の方にお願いました。1人目は、峰尾幸一氏(資源46)に「浮体式洋上天然ガス液化設備(FLOATING LNG, FLNG)の概要」と題して、海洋ガス田から産出される天然ガスを精製し、液化、貯



蔵、積み出しを行う浮体式の生産設備について分かりやすく説明いただくとともに、数々の海外駐在で生じたエピソードをご紹介いただきました。

2人目は、山中義則氏(資源H3)に「DOWAメタルマインの製錬およびリサイクルへの取り組みについて」と題して、金、銀、銅、亜鉛、インジウム、白金など数十種類の金属の精錬或使用済みPC基板などから貴金属やレアメタルを高効率に回収する技術について紹介いただきました。

懇親会は田町駅隣接の居酒屋にて賑やかに杯を傾けました。会場が狭く、窮屈ではありましたが、膝を突き合わせての会話が弾み、大盛況となりました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。また元気で会いましょう。今回参加できなかった方々、そしてまだ参加されたことのない方々、楽しみにお待ちしております。今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



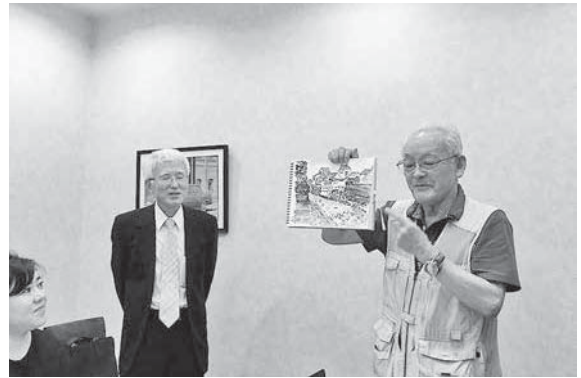
愛知地区同窓会 令和元年度総会報告

幹事 西 治久（土木46年卒）

令和元年7月7日、「トヨタ産業技術記念館」にて令和元年度の愛知地区総会を開催しました。ご来賓として常盤工業会の藤井輝夫会長、北陸地区同窓会の櫻井卓一会長をお迎えました。また今回は、静岡及び三重在住の会員4名の参加がありました。両地区との今後の展開につながればと思っています。

会場の記念館は、「豊田自動織布工場」跡地のレンガ造りの建物で、繊維機械・自動車・ロボット等トヨタの歴史が展示された施設で、総会は、施設内のレストラン「ブリックエイジ」で行いました。

総会では、はじめに各種報告を行いました。続いて、川井 隆（機械40）さんより「絵を描くって楽しい!」というタイトルで、65歳から始めた絵画について現在までの変遷や、楽しく絵を描く方法等についてお話をしていただきました。川井さんは、名古屋市長賞を2度受賞されており、その受賞作品を常盤工業会本部に寄贈されました。現在、常盤工業



会館に展示してあります。

懇親会では、食事をしながら自己紹介と近況報告。トヨタF1レーシングチームに参加してやり甲斐をみつけた話、海外の仕事が多く孫と会話ができない話、被災地でボランティア活動をしている話、最長老で小学生の宇宙教室で活躍している話等々、様々な報告がありました。現役の皆さんも、定年後の皆さんも仕事に趣味にそれぞれ生き甲斐を見つけて活躍されているようでした。異業種の話は尽きず、あっという間の3時間でした。

最後に、来年の再会を約束して総会行事を終了しました。遠方よりお越しいただいた藤井会長、北陸の櫻井会長、本当にありがとうございました。



関西本部

第35回総会・懇親会報告

化学系関西地区同窓会代表
西山 新一（工化51年卒）

令和元年9月14日、大阪市梅田の「バンダリア」にて、第35回総会を開催した。関西地区全学科で構成している関西本部の総会は隔年で実施しているので2年ぶりの開催である。

当日は、講演会講師として、山口大学医学部卒業の平松邦夫氏（医学博士）、常盤工業会本部から藤井輝夫会長（生産46）、山口大学工学部から堤 宏守工学部長、合田公一先生（機械工学科教授）、鈴木素之先生（社会建設工学科教授）、大原 渡先生（電気電子工学科教授）をご来賓としてお迎えした。出席者は来賓を含めて72名であった。

総会では冒頭に関西本部会長の高村和男氏（機械36）が挨拶を兼ねて活動報告を行い、続いて会計担当の伊藤孝夫氏（電気49）より監査報告を行った。議事はスムーズに進行し、活動報告、監査報告ともに一括承認された。

総会終了後、前原 博氏（土木42）より、「耐震基準に漏れている衝撃的鉛直地震波の話題」と題して、近々発表予定の先触れを行った。「衝撃的鉛直地震波」は、馴染みのない

言葉であるが、建物の破壊に関与していることを知り驚いた。

講演会では、平松邦夫氏が、「目の健康のお話」と題して、緑内障や近視等の症状と手術方法等についてお話をされた。お話の最後に日本の角膜提供者数は患者数の約半分であるとして、角膜不足の現状を訴え、角膜の提供を呼びかけるとともに、副理事長を務められている兵庫アイバンクを紹介された。加齢による目の病気等身近な話として皆熱心に拝聴し、目の健康の大切さを再認識した。

講演会終了後、記念撮影を行い、いよいよ懇親会である。ビュッフェスタイルの立食形式であった。ご来賓の方々に挨拶をしていた後、最年長会員の和田安澄夫氏（土木36）による乾杯の音頭で会食が始まった。終始和やかに進行し、近況報告、学生時代の思い出、同窓会活動の活性化等に話が盛り上がり、同窓会活動には若い人の参加が重要だという点で意見が一致した。

最後に、会場の「バンダリア」が近く閉店になり、次回から別の場所で開催することが告げられると参加者の中からは、「バンダリア」の閉店を惜しんでお別れ会（忘年会）を開催しようという話も持ち上がり、そのお別れ会で再会を約するグループもあった。

話は尽きなかったが時間がきたので懇親会はお開きとなり、話し足りない者や飲み足りない者は、誘い合って二次会に繰り出し、第35回関西本部総会は終了した。



関西本部

令和元年夏の「関西を歩む会」報告

電気系関西地区同窓会会長
加賀 尠寛（電気44年卒）

令和元年7月11日（木）に和田岬砲台と神戸市の兵庫・長田の下町を巡るコースで夏の「関西を歩む会」を実施しました。当日は雨の予報でしたが、幸い雨に降られることもなく、元気に歩むことができました。今回のコースとなっている「和田岬砲台」は、江戸末期の1864年（元治元年）に建設され、三菱重工業神戸造船所構内に現存しています。月に1回だけですが、第2木曜日に見学することができますので、今回の関西を歩む会ではそれに合わせて日程を設定し、和田岬砲台の見学を目玉に神戸の下町を歩むことにしました。

当日10時に神戸市営地下鉄和田岬駅に集合し、三菱重工業神戸造船所へ向かいました。10時20分に正門を出発し、案内の方の説明を聞きながら、約40分間砲台を見学しました。砲台の中は写真撮影ができたのですが、砲台の外は工場構内なので撮影はできません。砲台をバックにした写真を撮りたかったのですが残念ながらできませんでした。掲載している写真は工場を出た正門前で撮影したもので

す。その後、和田神社、清盛塚を見学しました。また、神戸はパンの美味しい街ですので、お土産が必要な方のために、人気のパン屋『メゾンムラタ』に立ち寄りました。お昼は、予約しておいた御崎公園そばのイタリアンレストラン『SASSA』で、パスタとビールを少しいただきました。

昼食後は川崎重工業兵庫工場を道路から見学しました。製作中の電車を眺めることができました。昔は鉄道ファンがよく写真を撮っていたのですが、現在は撮影禁止となりました。ただし、川崎重工業兵庫工場の本館には0系新幹線とこだま号が展示してあり、これは自由に撮影できました。その後、兵庫運河の完成に尽力した八尾善四郎の銅像を見て、長田区の下町を西へと進みました。長田区は神戸の震災で被害の大きかった地区です。海泉寺も本堂が崩壊しましたが、今は再建されています。震災時の写真を見ながら、当時のことを思い出していました。すぐそばには駒ヶ林神社があり、このあたりの海より平清盛が上陸したといわれています。更に西に進み、平^{ただのり}忠度（薩摩守忠度は、名が[ただのり]であることから無賃乗車を意味する隠語“薩摩守”の由来）の腕塚を見に行きました。民家の隅にひっそりと祀られています。ここまで歩むと、もう早くビールが飲みたくて、立飲み居酒屋『永井商店』に一目散に向かいました。飲み物や手作りの各種つまみを片手に、賑やかに団欒しました。最後は新長田駅近くの「鉄人28号」を見に行き、無事解散となりました。10キロを超える歩む会となり、楽しい1日を過ごすことができました。



機械系関西地区同窓会 第17回総会報告

副代表 波多 幸夫（機械40年卒）

季節は中秋ながら気温35度の猛暑日となった令和元年9月14日、大阪市北区梅田の「バンダリア」にて、機械系関西地区同窓会第17回総会を開催しました。当日はご来賓として、山口大学工学部から機械工学科学科長の合田公一教授をお迎えしました。当関西地区同窓会の総会は、隔年開催の関西本部総会と重ならないように交互に開催していますが、今回は臨時総会として同日に開催し、学生間の仲間意識が強かった昭和世代から、逆に弱くなったとされる平成世代までが一堂に会する同窓会とはどうあるべきか、じっくり話し合うことにしました。当会所属の会員に案内状を送付したところ、62名から回答がありました。臨時総会ということもあって当日の出席者数は9名と少なく、平成の若い卒業生がいない同窓会となりましたが、テーブルを囲んでお互いの顔がよく見える距離で終始活発な意見交換ができました。

開会の冒頭に、橋本代表から日頃の活動支援に対する御礼と新たな幹事当番制の提案が

あり、幹事の高齢化に伴う後継者選出への協力依頼が述べられました。次に事務局の高村幹事から1年間の活動報告と会計報告がありました。主議題の「若い卒業生に引き継ぐ準備班としての新幹事の選出」では、伝統ある「関西機械」の火を消してはならないと危機感を強く訴えられました。審議の結果、西一郎氏（機械60）が現幹事に加わり、引き続き令和の新しい時代に沿った同窓会のあり方を検討していくこととなりました。

続いて、合田先生から大学事情についてお話を賜りました。工学部改組変遷の紹介に始まり、海外留学の体制と実態、モノ作りをキーワードにした教育コースの改革と問題点、各種学会での学生達の活躍事例、JABEE認定校の効用、女子学生向けの内容を充実させた大学ウェブサイト、減額されてきた大学運営交付金と少子化への対応、論文から見た大学の国際評価の低迷と対応戦略、学科を統合して1学科制へ移行する動きなど、大学を取り巻く厳しい環境と活動の状況を紹介していただきました。情報満載のお話に、出席者一同時間を忘れるほど引き込まれました。

最後に集合写真を撮影し、関西本部総会及び懇親会に合流しました。



土木建設系関西地区同窓会 令和元年度総会報告

野畑 正明（土木54年卒）

9月14日（土）13時より、大阪西梅田の「バンダリア」にて令和元年度土木建設系関西地区同窓会総会を開催しました。当日は来賓に鈴木素之教授（社会建設工学科学科長）をお迎えしました。先生をはじめ35名の方々にご出席いただきました。

総会の開催にあたり、所属会員361名に案内状を送付しました。常盤工業会ホームページや鈴木先生からも周知していただきました。また、従前からの年次幹事に加えて、今年度から新たに10の民間企業・地方公共団体毎に職域幹事を配置し、各職域で総会出席を呼びかけていただいたところ、昨年比10名の増加となりました。その中でも特筆すべきことは、全体の6割を超える21名もの現役若手会員（うち女性会員2名）の出席があったことです。

この度の総会を契機として、これからも諸先輩をはじめ、より多くの現役会員や女性会員に出席していただけるよう、年次幹事や職域幹事の力を借りながら、関西土木の一層の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

総会では、笹倉雅人会長（土木47）の開会挨拶に続き、令和元年度役員・幹事の選出を

行いました。続いて平成30年度活動報告を行い、小金健会計幹事から平成30年度会計報告の説明を行いました。すべて全会一致で承認されました。

総会議事終了後、来賓の鈴木素之先生から、「土砂災害は繰り返す～時間防災学のススメ～」と題して、ご講演をいただきました。講演概要は以下のとおりです。

1. 広島市、防府市の土石流堆積物の放射性炭素年代測定結果と分布状況から、土石流の時間・空間的発生分布が解明された。2. 歴史資料・既往トレンチ調査結果との照合から、土石流の詳細な発生時期が解明された。特に年表の土石流発生年代が災害記録と概ね整合することがわかった。3. 現時点のデータに限れば、土石流の発生間隔は防府市の場合が100～200年、広島市の場合が150～400年程度と推定される。4. 将来も同様の頻度で土石流の発生が予想され、将来の発生を予測する上で重要な情報であり、危険溪流の抽出や被災予測の評価に期待できる。

最後に、鈴木先生を囲んで出席者全員の記念写真を撮影し、関西本部総会・懇親会に合流しました。関西本部の懇親会では和田安澄夫氏（土木36）の乾杯の挨拶で大いに盛り上がり、楽しく歓談し、再会を約して閉会しました。



電気系関西地区同窓会 令和元年度総会報告

会長 加賀 赳寛 (電気44年卒)

令和元年9月14日(土)13時より電気系関西地区同窓会の総会を大阪市北区の「バンダリア」で開催しました。関西地区の総会や月例会の会場として長年、「バンダリア」を利用してきましたが、建て替えられることになり、来年1月以降は別の会場をさがさなくてはならなくなりました。

今年の総会参加者は会員10名でしたが、新卒会員1名の参加があったことはとても嬉しいことでした。若い会員の参加がもっと増えてくれることを熱望しています。

総会では、1年間の活動報告と会計報告を行い、承認をいただきました。続いて来賓としてお越しいただいた山口大学工学部電気電子工学科学科長の大原 渡先生より電気電子工学の現状についてお話をいただきました。



した。皆、非常に興味深く聞き入っていました。総会終了後は、関西本部総会・懇親会に合流しました。

来年度の総会は、2020年9月5日(土)14時から電気系単独で開催する予定です。会場は一昨年利用した際に評価のよかったお酒と和風料理の美味しい旬彩割烹姫膳(神戸市三ノ宮)を利用したいと考えています。ご来賓として知能情報工学科の先生にお越しいただく予定です。多くの参加をお待ちしています。

会費の納入をお願いします

常盤工業会の活動は、皆様からの会費により運営されています。出費多端の折とは存じますが、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

- ◎会費のお振り込みは、会誌に同封の払込用紙(郵便局専用)をご利用ください。
- ◎インターネットバンキングをご利用の方は以下の項目をご参照ください。
(手数料は、本人負担となります。金額についてはご利用の銀行でご確認ください。)
- ◎通信欄に氏名、卒学科名、卒年をご記入ください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| ・銀行名 | ゆうちょ銀行 |
| ・金融機関コード | 9900 |
| ・店番 | 159 |
| ・預金種目 | 当座 |
| ・店名 | 159店(イチゴキユウ店) |
| ・口座番号 | 0025085 |
| ・口座名義(次のどちらで受付可能かはご利用の銀行により異なります) | |
| | ・(一社)常盤工業会(イチシャ トキワコウギョウカイ) |
| | ・常盤工業会(トキワコウギョウカイ) |

姫路地区同窓会 第30回総会報告

柴田 健治（機械45年卒）

令和元年11月2日（土）に第30回姫路地区同窓会総会を開催しました。現役バリバリ？の頃、故・黒髪正幸さん（鉱山41）の呼びかけで発足してから早や30年、第1回から数年は参加者も多く、かなりの賑わいでしたが、回を重ねるごとに減少し、ここ最近では10数名で低位安定しています。

どこの地区も参加者を増やすという課題に取り組んでおられますが、「メリット・デメリット」「費用対効果」などの視点から、「同窓会に参加してなにがある？」という問いに答えるのは難しいところがあります。そんな中、私自身がずっと参加していることについて考えてみました。行けばかつての仲間に出会えます。気が合う、話が合う仲間と日ごろの「何やかや」を言い合えば、頑張っている、落ち込んでいるのは自分だけではな

いと思ひ、ただそれだけで気持ちが軽くなります。仕事だけではなく趣味（私の場合はゴルフ）でも話が弾み、悩みを解決してくれる仲間もいます。それだけでも同窓会に参加する理由として充分だと思います。

歳を重ねるたびに仲間は自然と少なくなり、交際の間口も狭くなります。「新年のご挨拶は今年で最後とします」と書かれた年賀状が届くとせつなくもなります。だからこそ私は、趣味でも興味でも間口を広げ、そこから交友関係を広げ、この世？との関わりを強めなければと思っています。これが一番の参加理由であり、近年強く意識していることです。私にとって同窓会は「参加すること」それこそが目的です。

今回、来賓としてお越しいただいた藤井会長、三浦副学長のお話にも私の興味の琴線に触れることが多く、ほんとうに有意義な総会、懇親会でした。翌日のゴルフは、幸いにも全員に賞品が当たり、喜びのうちに今年度の総会行事を終えました。

